

# 関西支部 LMAG 第 11 回現地技術講演会記録

2017/6/22

## 講演会の概要

[http://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting\\_097.html](http://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting_097.html) を参照。

## 日時

2017 年 6 月 22 日(木) 14:10-17:00

## 場所

京都大学防災研究所 (宇治キャンパス) 連携研究棟 3 階大セミナー室  
(施設見学: 強震応答実験室、境界層風洞実験室)

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

0774-38-3348

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/maps/>

京阪宇治線「黄檗 (おうばく)」下車→徒歩 6 分、JR 奈良線「黄檗」下車→徒歩 6 分

## 参加者

14 名 (うち IEEE 会員・LMAG 8 名/LMAG 以外 3 名、非会員 3 名)  
講演者、防災研究所関係者を含まず。

## 講演者

京都大学防災研究所 畑山 満則教授

## 講演概要

### 災害対応への ICT/RT の活用

1995 年に発生した阪神・淡路大震災を契機として、防災・減災に積極的に先端的な情報通信技術 (Information Communication Technology : ICT) やロボット技術 (Robot Technology: RT) を利用する機運が高まった。ICT/RT 利用のためのインフラの整備や、限られた先駆者以外の人々の ICT/RT 利用が促進されるまでには時間が必要であったため、すぐには当時の期待に応えることはできなかったが、2011 年に発生した東日本大震災では、その期待に応える活動が多くみられた。

畑山は、1995 年の阪神・淡路大震災時に時空間を扱う地理情報システムの開発と防災応用の研究に携わっており、その後はこの経験をもとに ICT/RT を積極的に取り入れた災害対応や防災・減災の実現に関する研究に従事してきた。本講演では、東日本大震災や熊本地震での ICT/RT を活用した活動について、著者の視点で整理し、今後の災害対応の新しい流れとなりうる事例について紹介する。

講演の中で話された危機管理は、英語でいうところの、RISK MANAGEMENT（例：穴の開きにくいバケツにする）と CRISIS MANAGEMENT(例；穴の開いたバケツの穴をふさぐ)の両方の面があり、RISK を減らし、復旧をすばやくし災害度合いを減らす、の両面で考える必要がある。とくに巨大災害には後者が重要、というのは、強く訴える力があつた。

### 施設見学と感想

防災研究所が有する大型の強震応答実験室と境界層風洞実験室を、実験映像も交えて迫力たっぷりに説明いただいた。

### 写真



### 交流会

畑山先生を交えて 9 名で交流の場を持った。学科による考え方の違いや避難行動について自由な意見を出し合った。

以上